

4 市町村別の状況

* 卸売業では、奈良市が事業所数・就業者数・年間商品販売額のすべてで第1位、大和郡山市が第2位、橿原市が第3位。

* 小売業でも、奈良市が3項目すべてで第1位、橿原市が第2位。

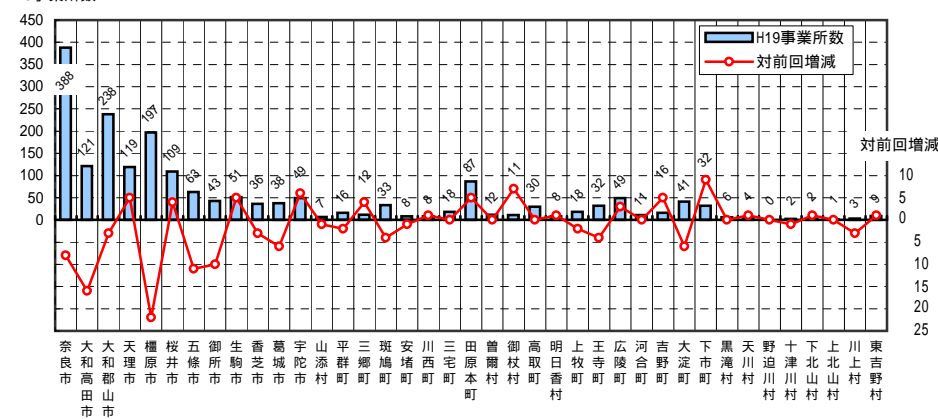
(1) 卸売業

事業所数

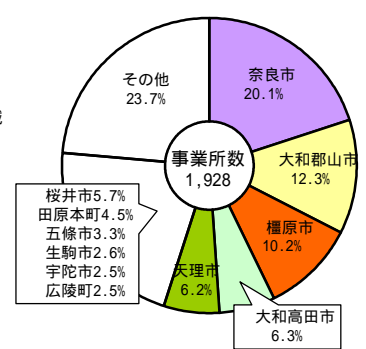
卸売業の事業所数は、奈良市(388事業所、構成比20.1%)が最も多く、次いで大和郡山市(238事業所、同12.3%)、橿原市(197事業所、同10.2%)、大和高田市(121事業所、同6.3%)、天理市(119事業所、同6.2%)の順となっており、これら上位5市で全体の5割以上(55.1%)を占めました。

前回と比べると、下市町(+9事業所)、御杖村(+7事業所)、宇陀市(+6事業所)など15市町村で増加した一方で、橿原市(-22事業所)、大和高田市(-16事業所)、五條市(-11事業所)など17市町村で減少し、減少市町村が増加市町村を上回りました。

第4-1図 市町村別事業所数及び対前回(H16年)増減



第4-2図 事業所数の市町村別構成比

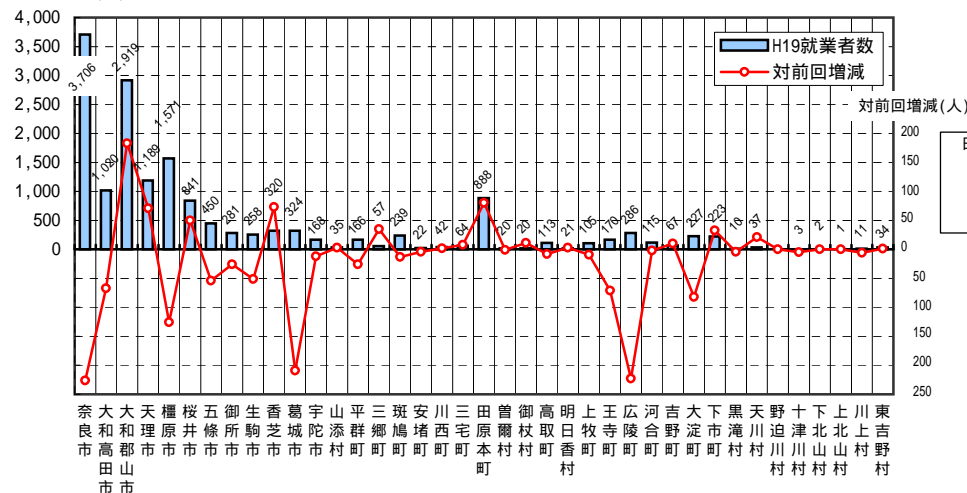


就業者数

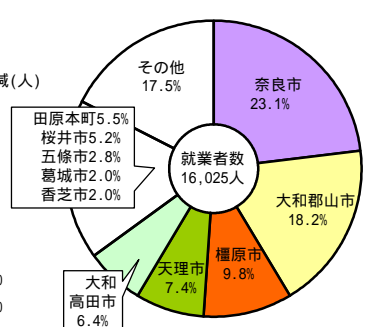
卸売業の従業者数は、奈良市(3,706人、構成比23.1%)が最も多く、次いで大和郡山市(2,919人、同18.2%)、橿原市(1,571人、同9.8%)、天理市(1,189人、同7.4%)、大和高田市(1,020人、同6.4%)の順となっており、これら上位5市で全体の6割以上(64.9%)を占めました。

前回と比べると、大和郡山市(+183人)、田原本町(+80人)、香芝市(+73人)など15市町村で増加した一方で、奈良市(-226人)、広陵町(-223人)、葛城市(-209人)、橿原市(-126人)など21市町村で減少し、減少市町村が増加市町村を上回りました。

第4-3図 市町村別就業者数及び対前回(H16年)増減



第4-4図 就業者数の市町村別構成比

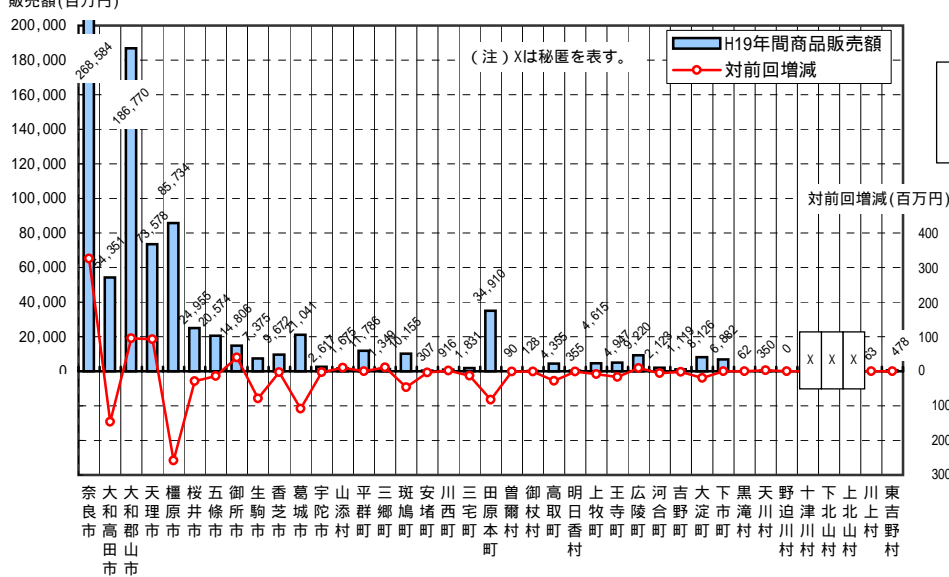


年間商品販売額

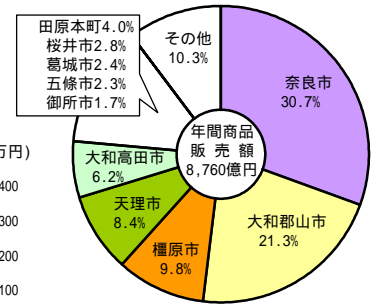
卸売業の年間商品販売額は、奈良市(2,686億円、構成比30.7%)が最も多く、次いで大和郡山市(1,868億円、同21.3%)、橿原市(857億円、同9.8%)、天理市(736億円、同8.4%)、大和高田市(544億円、同6.2%)の順となっており、奈良市と大和郡山市の上位2市で全体の5割以上(52.0%)、上位5市では7割以上(76.4%)を占めました。

前回と比べると、奈良市(+326億円)、大和郡山市(+96億円)、天理市(+92億円)の3市で50億円以上増加するなど11市町村で増加しましたが、橿原市(258億円)、大和高田市(146億円)、葛城市(109億円)、田原本町(82億円)の4市で50億円以上減少するなど28市町村では減少し、卸売業全体でも減少(279億円)となりました。

第4-5図 市町村別年間商品販売額及び対前回(H16年)増減



第4-6図 年間商品販売額の市町村別構成比



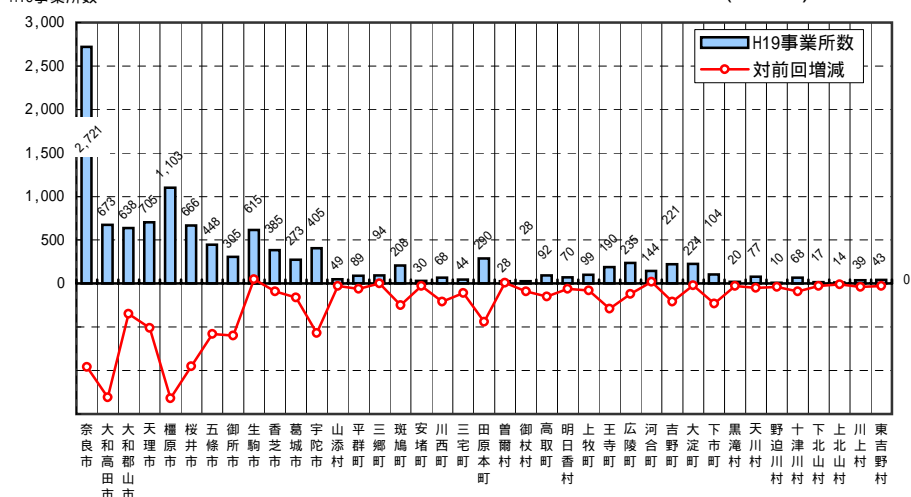
(2) 小売業

事業所数

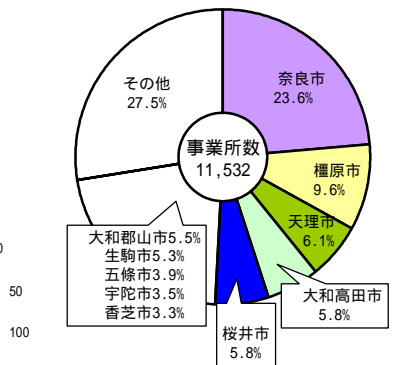
小売業の事業所数は、奈良市(2,721事業所、構成比23.6%)が最も多く、次いで橿原市(1,103事業所、同9.6%)、天理市(705事業所、同6.1%)、大和高田市(673事業所、同5.8%)、桜井市(666事業所、同5.8%)の順となっており、これら上位5市で全体の5割以上(50.9%)を占めました。

前回と比べると、増加したのは生駒市(+5事業所)など3市町村のみで、橿原市(132事業所)、大和高田市(131事業所)、奈良市(96事業所)、桜井市(95事業所)をはじめ35市町村で減少しました。

第4-7図 小売業の市町村別事業所数及び対前回(H16年)増減



第4-8図 事業所数の市町村別構成比

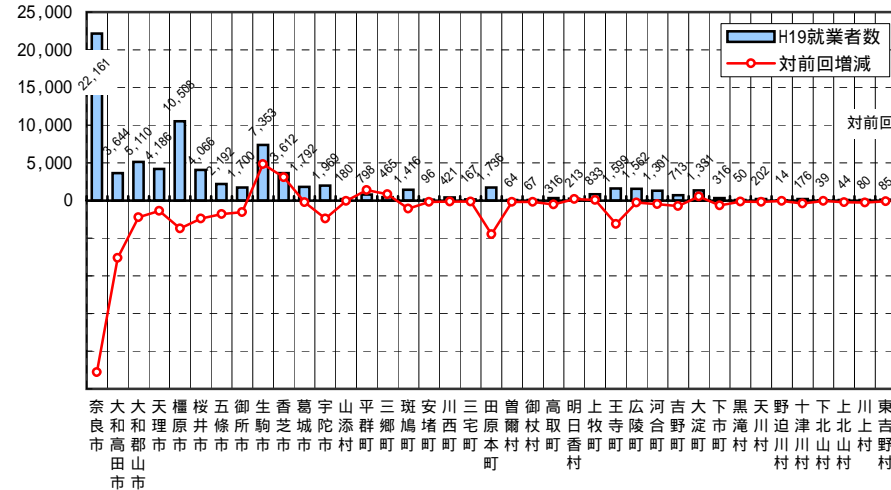


就業者数

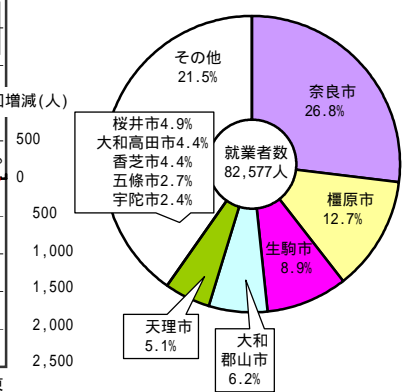
小売業の就業者数は、奈良市(22,161人、構成比26.8%)が最も多く、次いで橿原市(10,508人、同12.7%)、生駒市(7,353人、同8.9%)、大和郡山市(5,110人、同6.2%)、天理市(4,186人、同5.1%)の順となっており、これら上位5市で全体の6割(59.7%)を占めました。

前回と比べると、生駒市(+484人)、香芝市(+309人)、平群町(+139人)など7市町村で増加する一方、奈良市(-2,278人)、大和高田市(-761人)、田原本町(-450人)など32市町村で減少し、減少市町村が増加市町村を上回りました。

H19就業者数(人) 第4-9図 小売業の市町村別就業者数及び対前回(H16年)増減



第4-10図 就業者数の市町村別構成比

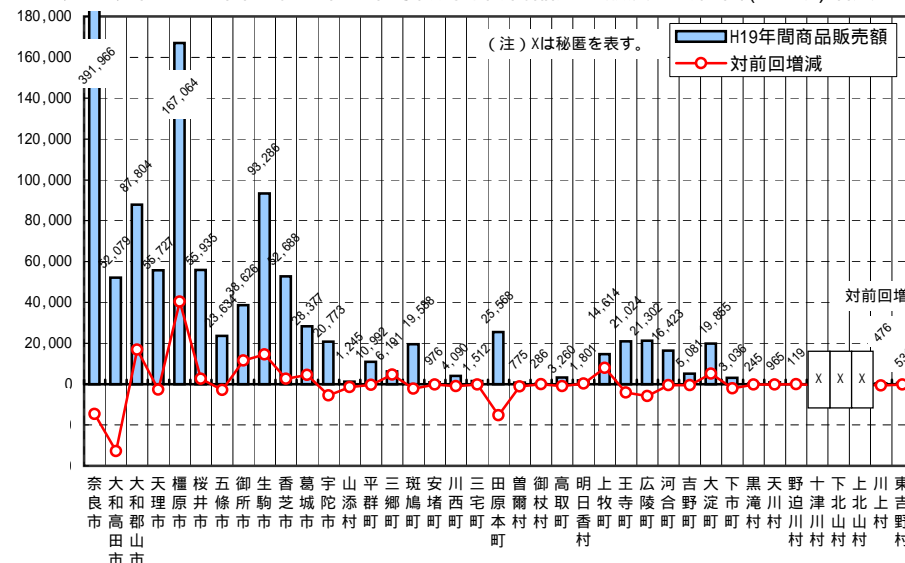


年間商品販売額

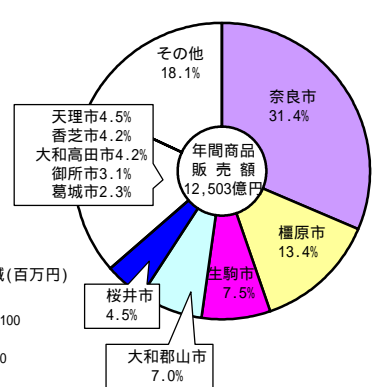
小売業の年間商品販売額は、奈良市(3,920億円、構成比31.4%)が最も大きく、次いで橿原市(1,671億円、同13.4%)、生駒市(933億円、同7.5%)、大和郡山市(878億円、同7.0%)、桜井市(559億円、同4.5%)の順となっており、これら上位5市で全体の6割以上(63.8%)、特に奈良市と橿原市の上位2市で4割以上(44.8%)を占めました。

前回と比べると、大和高田市(-164億円)、田原本町(-76億円)、奈良市(-73億円)で50億円以上減少するなど28市町村で減少した一方で、11市町村では増加し、特に橿原市(+202億円)、大和郡山市(+85億円)、生駒市(+73億円)、御所市(+58億円)で50億円以上増加したこと等により、小売業全体でも増加(+75億円)となりました。

H19年間商品販売額(百万円) 第4-11図 小売業の市町村別年間商品販売額及び対前回(H16年)増減



第4-12図 年間商品販売額の市町村別構成比

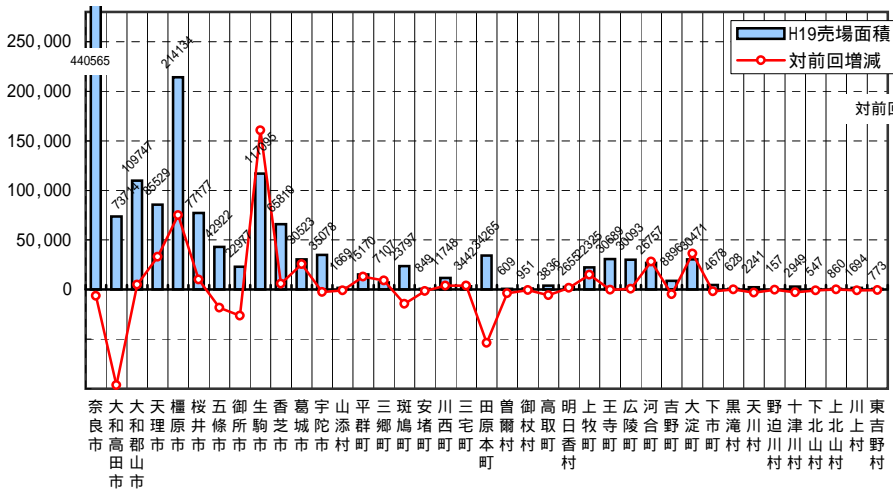


売場面積

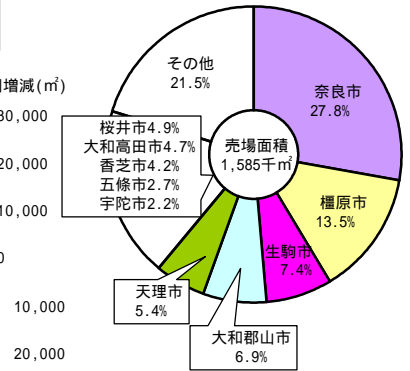
小売業の売場面積は、奈良市(441千㎡、構成比27.8%)が最も広く、次いで橿原市(214千㎡、同13.5%)、生駒市(117千㎡、同7.4%)、大和郡山市(110千㎡、同6.9%)、天理市(86千㎡、同5.4%)の順となっており、奈良市と橿原市の上位2市で全体の4割以上(41.3%)、上位5市で6割以上(61.0%)を占めました。

前回と比べると、大和高田市(19千㎡)、田原本町(11千㎡)、御所市(5千㎡)など21市町村で縮小した一方で、生駒市(+32千㎡)、橿原市(+15千㎡)、天理市(+7千㎡)、葛城市(+5千㎡)など18市町村では拡大し、全体でも拡大(+36千㎡)となりました。

第4-13図 小売業の市町村別売場面積及び対前回(H16年)増減



第4-14図 売場面積の市町村別構成比

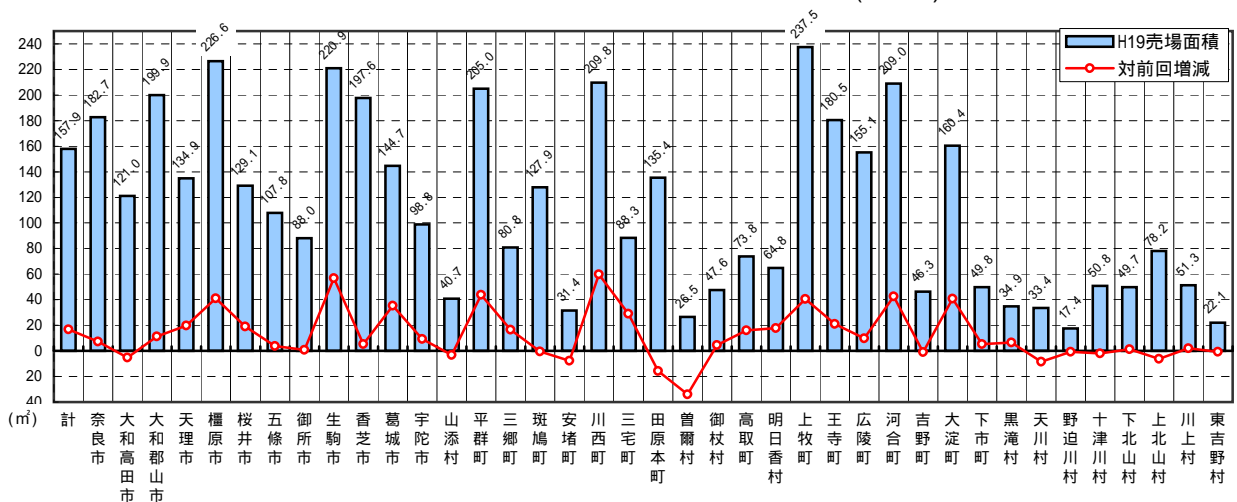


【1事業所当たり売場面積】

1事業所当たりの売場面積では、上牧町(237.5㎡)が最も広く、次いで橿原市(226.6㎡)、生駒市(220.9㎡)、川西町(209.8㎡)の順となっています。

前回に比べて最も拡大したのは川西町(+59.8㎡)で、次いで生駒市(+56.9㎡)、平群町(+43.9㎡)の順となっており、これら3市町を含め28市町村で拡大しました。

第4-15図 小売業の市町村別1事業所当たり売場面積及び対前回(H16年)増減



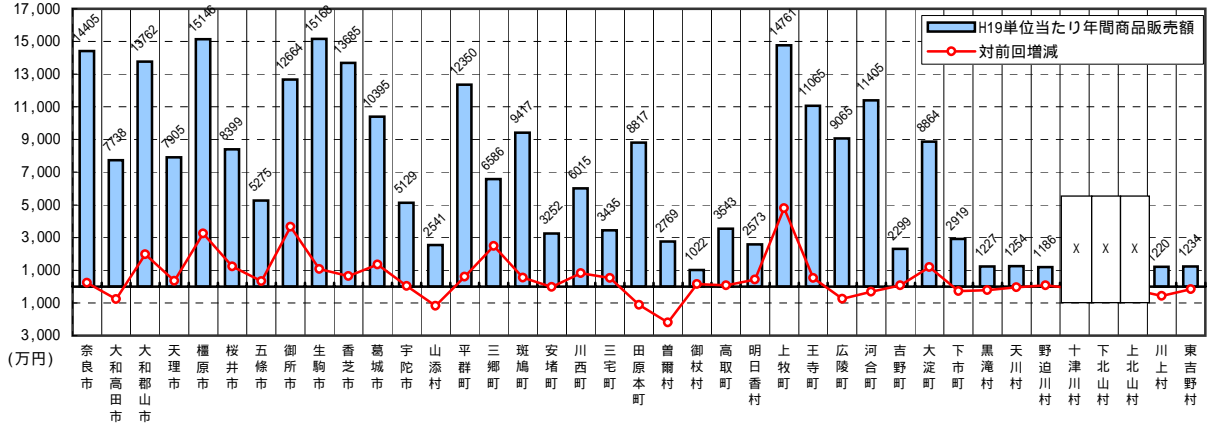
販売効率

【1事業所当たり年間商品販売額】

1事業所当たりの年間商品販売額は、生駒市(1億5,168万円)が最も大きく、次いで橿原市(1億5,146万円)、上牧町(1億4,761万円)、奈良市(1億4,405万円)の順となりました。

前回と比べると、上牧町(+4,799万円)、御所市(+3,663万円)、橿原市(+3,253万円)などで大きく増加しました。

第4-16図 小売業の市町村別1事業所当たり年間商品販売額及び対前回(H16年)増減

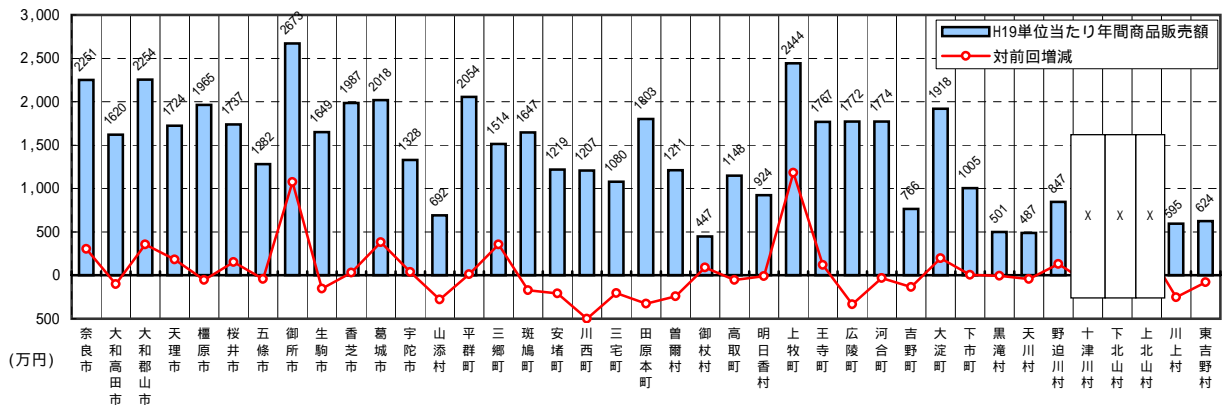


【就業者1人当たり年間商品販売額】

就業者1人当たりの年間商品販売額は、御所市(2,673万円)が最も大きく、次いで上牧町(2,444万円)、大和郡山市(2,254万円)、平群町(2,054万円)、奈良市(2,251万円)の順となりました。

平成14年と比べると、上牧町(+1,182万円)、御所市(+1,075万円)などで大きく増加しました。

第4-17図 小売業の市町村別就業者1人当たり年間商品販売額及び対H14年増減



【売場面積1㎡当たり年間商品販売額】

売場面積1㎡当たりの年間商品販売額は、三郷町と曽爾村(ともに74万円)が最も大きく、次いで奈良市(68万円)、斑鳩町(65万円)の順となりました。

前回と比べると、三郷町(+14万円)、上牧町(+13万円)などで増加しました。

第4-18図 小売業の市町村別売場面積1㎡当たり年間商品販売額及び対前回(H16年)増減

